ボランティア支援センタースタッフ情報紙　つうしん

ふくろう通心

第69号

2018年 12月

はじめて受け入れたボランティア

6月上旬、弘前市ボランティア支援センターから**青山学院大学国際ボランティア団体14名**が青森で**農作業のボランティアの受け入れ先を探していると電話が**ありました。

私はボランティアというと震災で瓦礫の撤去作業というイメージがあり、**すぐ断るつもりでしたが**、農作業ボランティアということで、迷いながらも、私の心の奥底から『**断ることは簡単「チャレンジ！チャレンジ！」**』という声がしました。でもどうしたら良いか全く分からない、断る気はない、**前向きに検討したいと胸の内を、すぐ上司に相談**しました。市役所農林課内でも**ボランティア活動を受けるか受けないか賛否両論**はあったことは事実です。ただ、**黒石市には**昨年から取り組んでいる**「ワーキングホリデー黒石」という農作業と農泊など地域交流等を**首都圏の学生に実際に黒石に来て**体験してもらう事業**があります。この事業を進めているうちに農家さんとは顔なじみになり繋がっていたので農作業ボランティアを受けることについては問題なしと思っていました。しかし、引き受けてから**日程が8月10日から17日**という**リンゴ作業のない時期**だったので、どうしようかと思いました。あ！そうだ！黒石市には沖揚の高冷地野菜があると思い、**レタス農家さんに相談**しました。なんと**偶然にもレタス農家さんは青山学院大学国際ボランティアOBで**あったため**快く農作業ボランティアを受入れてくれました。**着々と受入れ体制が整ってきたと思いましたが、**宿泊場所がなく困っていた**ところ、**大川原町内会の皆さんのご厚意で町内の「ふくじゅ草会館」を宿泊場所として提供していただくことができました。**大川原町内会の人々の器の大きさには唯々頭が下がりました。**

そこで**私は大川原町内会に恩返ししたい**と思い、学生さん14名で何ができるのか考えました。 あっ！大川原には**毎年8月16日に約600年前頃から始めた精霊流し**、集落を流れる中野川で舟3隻に火をつけ若者が引き、無病息災を祈るおまつり「**大川原の火流し**」（県）**無形民俗文化財**があります、**そのお祭りの雑用の手伝いをさせて欲しい**と頼みました。大川原**町内会長は**「我々も伝統ある**火流しを継承して行くことが難しい**時にきている、まずは村に若者がいない、外から巻き込んでもっとお祭りを盛り上げて欲しい」との訴えでした。あ！**農家さんも高齢化で人数も減少**している、ここの**お祭りにもまた少子高齢化の波が来ている**としみじみ思いました。

さて本番、学生さん14名が黒石に到着しました。**農作業ボランティア**（レタス・花きの収穫、朝市の伝票整理）**大川原火流しボランティア**（町内の提灯を飾り、囃子、舟を作成、舟を引く）**ふるさと元気まつりのスタッフボランティア**（テント組立、草刈）など慣れない環境の中、**津軽弁と農作業に奮闘**し、**学生さん達は心地良い疲れだと**言っていました。そして黒石付近を知って欲しいとの思いから、こみせ通りの散策、三内丸山遺跡、白神山地を案内し、キミ（とうもろこし）を食べに行ったりして、**喜んで帰りました。**

「くろいし」のおいしい水、あずましい温泉、美味しいりんごを食べ、**テーマパーク等、何もないけど、人情が厚い黒石を故郷だと思ってまた来て欲しい。**そして、この**青山学院大学国際ボランティア団体のメンバーの成長がなにより楽しみでなりません。**

黒石市役所農林課六次産業化推進係　主査　村元和香子

＊＊＊＊＊　お詫びと訂正　＊＊＊＊＊

ふくろう通心 68 号に掲載したコミュニティカフェ『らみぃ』の営業時間について、
正しくは 10 時～15 時です。お詫びして訂正いたします。